

富山市社会インフラマネジメント | 道路・河川・公園 |

Infrastructure Management
Toyama City



社会インフラマネジメントの現状と課題

社会インフラとは？



道路や橋りょう、公園などの社会インフラは、私たちの生活を豊かにし、経済活動を支える都市の基盤です。

富山市の社会インフラは、どのような状況？

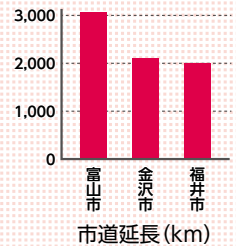


宅地造成により、毎年、増加…

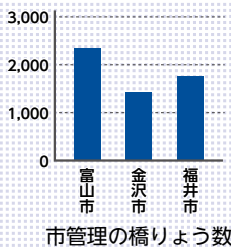
市道延長: 約 **3,115** Km

老朽化により、陥没やひび割れなどが発生…

富山市は、道路延長が長いんだね!



富山市は、橋も多いね!



老朽化は、日々進行…

市道橋: 約 **2,300** 橋

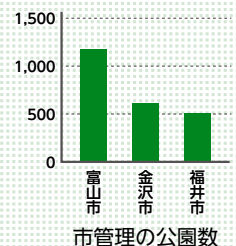


宅地造成により、毎年、増加…

公園数: **1,135** か所

老朽化した施設の更新が必要…

富山市は、公園も多いね!



財政状況が厳しい中においても、**社会インフラ** を適切に **マネジメント** する必要があります。



社会インフラマネジメントの基本方針

目標

持続可能な都市を支える社会インフラを
将来世代に健全な状態で引き継ぐ

全体方針

持続可能な社会インフラマネジメントの実現

基本方針1 適度な増加の抑制（量のマネジメント）

真に必要な道路を市道として認定します。

公共施設へのアクセスや通学路など道路の状況を踏まえて市道の整備を行います。



開発行為により設置された公園

宅地開発における
公園の設置義務を
緩和しました。



市道の整備(大町本郷線)

基本方針2 管理水準の適正化（質のマネジメント）



橋りょうの定期点検

道路の役割や重要度に応じた
メリハリのある対策を進めて
います。

基本方針3 新たな仕組みの導入（資源のマネジメント）



センサーの動作確認(土木研究所との実証実験)



民間等との連携やICTの活用など新たな仕組みの導入を進めています。

CIMの活用状況

道路や橋りょう、公園などの社会インフラは
安全で安心な市民生活や社会経済活動を支える都市の基盤です
人口減少や少子高齢化が進み行財政運営が一層厳しさを増す中
高度経済成長期に集中的に整備された社会インフラが
老朽化に伴う大規模な修繕や更新を迎えることは明らかです



社会インフラを適切に管理し続けるためには
富山市の地域特性やまちづくりなどを踏まえ、計画から設計、施工、維持管理、更新
場合によっては廃止に至るまでのプロセスを一連のものとして捉えたマネジメントを推進し
将来の世代に健全な社会インフラを過度な負担を残すことなく
引き継ぐことが必要となります